矢作川・東海（恵南）豪雨10年企画

地球温暖化、異常気象等により、地球規模で大規模な出水や干ばつが発生しています。東海（恵南）地方においても、平成１２年９月１１日～１２日の東海（恵南）豪雨により、戦後最大規模となる洪水が発生しました。

洪水がもたらす被害やその教訓を風化させることなく、併せて防災・減災対策の必要性を幅広く地域へ伝えることにより、地域住民の防災意識の向上を図り、次世代へ伝承することを目的として、8 月より各地でパネルリレー展示やシンポジウム等を開催いたしました。

共催：豊橋河川事務所、矢作ダム管理所、
愛知県、岐阜県、長野県、
矢作川流域圏市町村、中部建設協会
愛知県建設業協会、恵那建設業協会

第1弾
パネルリレー展示
第2弾
情報伝達訓練の実施
第3 弾
災害復旧訓練の実施
第4 弾
矢作川流域圏懇談会の設立
第5 弾
シンポジウムの開催
（豊田市福祉センター）
第6 弾
シンポジウムの開催
（恵那市上矢作公民館）

【第１弾】パネルリレー展示

矢作川流域圏各市町村の市役所、公民館、防災イベント等において当時の災害の状況を振り返るパネルを掲示するとともに、被災から10 年間の取り組みを説明するパネルを掲示し、多くの方に御覧いただきました。また、各市町村のハザードマップを大きく示し、災害時にどこへ避難するのか改めて認識していただくことが出来ました。

パネル展示の様子

東海（恵南）豪雨１０年企画

【第２弾】情報伝達訓練の実施

８月２５日（水)に国・愛知県・豊田市が参加して被災後１０年経過した現在、予測情報、危険な範囲などのきめ細かな情報伝達を検証しました。

自治体首長が避難勧告を判断する河川の避難判断水位の確認に対して、国からのホットラインによる河川情報の提供及び３時間先の河川水位予測の提供により、伝達にかかる時間等を考慮して、従来より１時間半早く避難勧告が発令できることを確認しました。

情報伝達訓練の様子

【第３弾】災害復旧訓練の実施

８月２７日（金）国と愛知県建設業協会による災害復旧訓練を過去に越水被害のあった豊田市御立地区（矢作川左岸38.4k 付近）において実施しました。

災害現場での指揮、情報収集等にあたる災害対策本部車の設置訓練、大雨による浸水を想定した排水ポンプ車の稼働訓練、堤防決壊を想定した５ｔブロック投入による荒締切の訓練を災害時に協定を結んでいる愛知県建設業協会と協同で実施しました。

ブロック投入による荒締切の訓練状況

排水ポンプ車による排水ポンプ稼働状況

【第４弾】矢作川流域圏懇談会の設立総会

豊橋河川事務所及び矢作ダム管理所では、矢作川流域圏に係る国、県、市町村の関係行政機関、学識経験者、関係団体、市民団体等で構成する「矢作川流域圏懇談会」の設立総会を８月２８日（土）に一般傍聴の方を含め143名の出席により開催しました。

このような流域圏で一体として取り組む会議は、中部地方整備局管内の1級河川では初めてのケースとなります。今後も意見交換の場とするため、定期的な開催を予定しております。

矢作川流域圏懇談会総会の様子

【第５弾】シンポジウムの開催（愛知県豊田市福祉センター）

９ 月11 日（土）「矢作川・東海（恵南）豪雨から10 年～洪水の教訓を次世代に伝える」をテーマに豊田市福祉センターにおいてシンポジウムを開催しました。当日は暑い中にもかかわらず、480 名の方にご参加頂きました。基調講演は、愛知工業大学 四俵教授から「喉元過ぎれば…」と題して、災害時に避難することの重要性とその対策についてお話しを頂きました。

シンポジウム（豊田市）の様子

話題提供は、豊田市消防団 片桐分団長より当時の災害の恐ろしかった状況についてお話しを頂きました。また、豊橋河川事務所 畠山所長からも被災後10 年間の取り組みについて説明がありました。

パネルディスカッションでは中部大学 松尾教授をコーディネーターにお迎えし、矢作川水系森林ボランティア協議会 山本氏、NPO 愛知ネット理事長 天野氏、中日新聞論説委員 前田氏、愛知工業大学教授 四俵氏、豊田市長 鈴木氏の５名の専門家のパネリストの方々より「過去」「現在」「将来」という３つの観点から、防災・減災等について意見がかわされました。

【第６弾】シンポジウムの開催（岐阜県恵那市上矢作公民館）

９ 月12 日（日）「矢作川・東海（恵南）豪雨から10 年～洪水の教訓を次世代に伝える」をテーマに恵那市上矢作町公民館においてシンポジウムを開催しました。

シンポジウム（恵那市）の様子

基調講演として岐阜大学 藤田教授から「災害に備える心構え」と題してお話しを頂き、NPO レスキューストックヤード 浦野常務理事からは「災害から1 人ひとりの命と暮らしを守るためにできることから始めよう」と題してお話を頂きました。

パネルディスカッションでは岐阜大学 藤田教授をコーディネーターにお迎えし、恵那市消防団分団長 小林氏、災害体験語り部 松岡氏、NPO レスキューストックヤード常務理事 浦野氏の3名のパネリストを迎え「恵南豪雨災害の教訓と課題、そして今」と題して、自助・援助等について意見がかわされました。

最後に

矢作川・東海（恵南）豪雨から10 年が経過し、ソフト面・ハード面での整備は進んだもののまだ十分とはいえません。また、いつ想定を上回る災害が発生するかもしれません。そのため、整備が完了したからといって安全であるということではありません。

大事なことは、着実に治水対策を行うとともに、避難情報の迅速かつ的確な発進等に向けて、河川管理者、自治体、住民が連携して減災に努めていく等のソフト対策を併せて充実していくことです。

矢作川流域においては、矢作川・東海（恵南）豪雨10 年企画を通じて得られた成果や意見を、今後の流域圏懇談会や水防協議会等の議論の場に活用していく予定です。